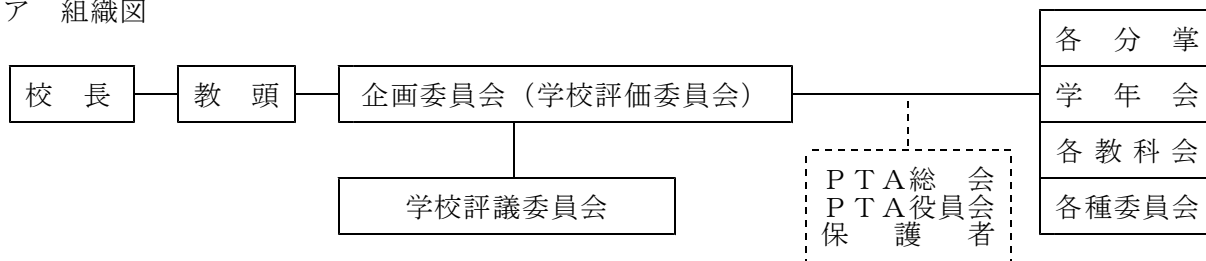


平成29年度の学校評価（自己評価等）

平成29年11月14日（火）に学校評議員会を開き、中間報告・意見交換を行いました。
平成30年3月6日（火）に学校評議員会を開き、下記のとおり最終報告を、行いました。

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

ア 年度末に前年度の学校評価について総合評価を行うとともに、次年度の課題や重点目標について立案する。

イ 年度の中間期（10月）に、学校評議員会で中間評価を行い、当年度の課題や重点目標の達成度について検討する。

ウ 学校評価について、中間評価や総合評価をP T A役員会やP T A総会において保護者に説明する機会を設ける。

エ 学校関係者評価委員会を年度末に実施

(3) 平成29年度の学校評価

本年度の重点目標	ア 歴史と伝統を基盤にした地域に信頼される活力と魅力にあふれる学校づくりの推進 イ 教師と生徒の信頼に基づいた授業づくり、学校行事づくりの研究と実践 ウ 基本的生活習慣の確立による個の充実と生徒会活動・部活動の活性化による組織力の向上		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 （教務部） （各教科会） （各学年会）	授業に臨む態度の育成 学習意欲の向上 基礎学力の定着 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 授業の準備の定着を図る。 チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 計画的な確認テストを実施していくことで、生徒の理解度を把握していく。 計画的な課題学習を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させていく。 授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当の先生の指導により、ほぼできるようになっている。今後は授業の受け方など、授業規律の向上も目指していく。 各授業のガイダンスは、授業等を通して、丁寧に説明・指導されている。しかし、一部の生徒は定着していない面が感じられる。特に入学直後に学ぶ意欲・学び方を教科会と協力して育てていく。 力を付ける学習になっておらず、課題を終えるだけの学習になっている生徒がいる。現在行っている学習指導を土台にして、生徒の実態を踏まえ、改善策を検討する。 各教科担当のやりやすい形で授業アンケートを行っているが、その活用を積極的に行い、分かる授業、考える授業など授業改善に繋げていく。特に英・教・国については、今年度立ち上げたプロジェクトチームのメンバー中心に授業改善に取り組んで行く。
生徒指導 （生徒指導部） （各学年会）	規範意識（法令・校則等の遵守）の醸成と基本的生活習慣の確立及び適応指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 高校生としてあるべき姿を自覚させ、法律、校則、マナーを遵守し、実践する姿勢を養う。 場面や相手に応じた適切な言動を心がけさせ、礼儀や社会性を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談部と連携し、個に応じた指導や適応指導が重視されてきている。来年度に向けて、校内でのスマホの使用規定を見直す。

項目（担当）	具体的目標	具体的方策	評価結果と課題
		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、早退、欠席の防止のために保護者との連携を密にし、学校への帰属意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年間による指導基準の差違はほとんどなくなった。しかし、昨年度に比べ、遅刻の数が倍増した。メンタル面の弱い生徒が増えてきている事も考えられるが、次年度に向けて遅刻指導の体制の見直しを行う。
進路指導 （進路指導部） （各教科会） （各学年会）	効果的な進路行事の設定や進路学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや進路学習の時間をとおして、進路意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス・オープンキャンパス・講演模擬授業等への参加は年々熱心になっているが、進路意識や普段の学習内容への結びつきがまだ十分ではないので、指導を充実していきたい。模擬試験の結果の活用や補習等を活用し卒業後の進路を考える機会を増やす。
学校安全・保健 （生徒指導部） （保健厚生部） （総務部） （各教科）	健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る 生活習慣改善のための啓発活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。 保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年多様な生徒が増えケース会議を開く機会が増えたが、生徒指導部と連携をとることで、対応の効果を上げていく。 体育祭のクラステントは効果的であったので、次年度は生徒会の予算委年度当初から組み入れ、今後でも対応していく。
保護者連携 地域連携 （総務部） （生徒会）	家庭や地域社会との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者がPTA活動や各種学校行事に積極的に参加いただけるようきずなネットを活用し案内に努めた。次年度はホームページの更新速度を上げ、本校の教育活動への理解と協力が得られるよう情報発信に努めていきたい。
いじめ・不登校対策委員会	いじめの未然防止に係わる取り組みの充実 ・いじめの早期発見、適切な事案対処	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「学校生活に関するアンケート」（年2回実施）の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートを年2回実施した。その後の追跡調査においても各学年や部顧問等の迅速な対応（面談や指導）により、細かく対応がなされ、早期対応に繋がっている。今後もアンケート用紙など、生徒の実態に応じて改善をしていく。 学校に適應できず、進路変更を余儀なくされる生徒が各学年にいた。相談部と連携を密にし、早期対応していく。
総合評価	<p>昨年度減少した遅刻は大幅に増加し、遅刻に対する意識が低くなっている。気を緩めるとやはり易きに流される生徒がまだまだ多いため、指導体制の見直しを含め次年度の体制づくりが必要である。また、欠席が目立つ生徒への対応として、教育相談体制の見直しや、地道な生徒面談を行うことを継続していく必要がある。</p> <p>授業態度、課題の提出状況は向上しているが、基礎学力の定着がまだ不十分であり、学習に対する意欲の向上に繋がっていない。今後も日常的な粘り強い指導を継続するとともに、興味・関心が湧く授業改善や主体的・対話的な深い学びができるような授業改善に各教科取り組むとともに、進路意識を高めるなど学習に対する意欲を喚起する方策の更なる研究に取り組んでいく。</p>		